

# High organization-based self-esteem is associated with lower risk of depressive symptoms among university athletes

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-08-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野栗, 立成 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003318">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003318</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 99 号

## High organization-based self-esteem is associated with lower risk of depressive symptoms among university athletes

(大学生アスリートにおける高い組織内自尊感情は抑うつ症状を呈するリスクの低さと関連する)

野栗 立成 (のぐり りゅうせい)

博士 (スポーツ健康科学)

### 論文審査結果の要旨

#### 【研究目的の特徴・独創性・論理性】

産業組織心理学とスポーツ心理学の文献をレビューし、産業場面で扱われていた「組織内自尊感情」を大学生アスリートに適用して抑うつ症状との関連を検討した点に研究の特徴があり、独創性が認められる。未検討課題を解決するための研究目的が設定されており、論理性にも問題がない。

#### 【研究方法の妥当性】

[研究Ⅰ]では、心理学領域で認められた心理尺度作成方法、[研究Ⅱ]では、疫学において頻繁に用いられているロジスティック回帰分析(リスクを推定する方法)が用いられ、統計学的に十分なサンプルサイズを確保して研究が設計されており、研究手法の妥当性が認められる。

#### 【結果・知見の新しさ】

これまで測定不能であった「大学生アスリートの組織内自尊感情を測定する心理尺度を作成した」点、今回作成した尺度を用いて「大学生アスリートの組織内自尊感情が抑うつ症状の表出と関連することを示した」点が新しい知見と言える。

#### 【考察および結論の妥当性】

アスリートの抑うつ症状に関する研究を体系的に整理し、得られた結果に基づいて日本人アスリートの抑うつ症状に関する従来知見も勘案しながら考察を進めている。横断研究の限界を踏まえて考察と結論を展開しており、考察と結論の妥当性に問題はない。

#### 【研究の当該分野における位置づけ】

大学生アスリートの抑うつ症状のリスク要因として、組織内自尊感情という新たな要因を明らかにした。本研究は、スポーツ科学領域では扱われてこなかった組織内自尊感情をスポーツ科学の研究の俎上に載せることに成功しており、スポーツ健康科学領域において新たな知見を付与するものである。

#### 【質疑に対する応答の適切性】

質疑応答では、大学生アスリートの抑うつ症状の先行研究や、本研究で用いた分析方法に関する質問が主となったが、質問に対してデータを提示しながら丁寧かつ適切に回答していた。

#### **【論文審査の結果】**

論文審査の結果、合格とする。本研究では、大学生アスリートの組織内自尊感情と抑うつ症状の関連が検討された。論文執筆が適切に行われ、審査の結果、上記の評価項目に対して一定の評価が得られたことから、博士（スポーツ健康科学）の学位を付与する水準に相応しいと判断した。